台大日本語文研究第 43 期
2022 年 06 月，頁 87-116
2022-03-31 收稿，2022-05-25 通過刊登
DOI: 10.6183/NTUJP. 202206_(43).0004

# 從「名詞＋だけだ」來觀察「量」與「質」的交錯
## ―兼以中日對照的觀點―

陳昭心*

## 摘要

先行研究曾指出，想要表達「弟はまだ 10 歳だ」卻出現了「*弟は 10 歳だけだ」這樣的誤用，可以從「量的規定」與「質的規定」的不同來說明: 此為「質的規定」，與「だけだ」的使用不相容。另外，亦有先行研究提出了例外可以相容的狀況以及「だけだ」的使用原理。不過，「量的規定」與「質的規定」的判斷，對於非以日語為母語的人士來說，並不見得容易。

本研究從前提集合的種類與要素之間的關係、「量的序列」「質的序列」之樣式等面向，來討論「量」與「質」的交錯。並且，藉由比較日語「だけだ」與中文“只＋有/要/是”能否和數量詞一起使用，來討論日語與中文裡對於「量」與「質」的判斷有不一致之處。

關鍵詞：「だけだ」、“只＋有/要/是”、量、質、數量詞

* 國立臺灣大學日本語文學系副教授

臺灣大學學術期刊資料庫

# Does Noun+dakeda Mean Quantity or Quality? Including a contrasting perspective between Japanese and Chinese

Jaushin CHEN*

## Abstract

A previous study shows the misuse example “*弟は 10 歳だけだ” by learners of Japanese as a second language and explains that *dakeda* is only suitable for " quantitative expression." And another previous study shows the principle of using *dakeda* and points out that in some cases *dakeda* is also suitable for "qualitative expression." However, it is not always easy for non-native speakers of Japanese to judge "quantity" and "quality."

In this study, I discuss the intertwining of "quantity" and "quality " from the types of presupposition of sets, the relationships between elements, and the modes of "quantitative scale" and "qualitative scale." And by comparing the co-occurrence of quantifiers with Japanese *dakeda* and Chinese *zhi* + *you/yao/shi*, I point out that there is a discrepancy in the judgment of "quantity / quality" between Japanese and Chinese.

Key words: *dakeda*, *zhi+you/yao/shi*, quantity, quality, quantifier

* Associate Professor, Department of Japanese Language & Literature, National Taiwan University

臺灣大學學術期刊資料庫

# 「名詞＋だけだ」から見た「量」と「質」の絡み合い
## ―日中対照的視点を含めて―

陳昭心*

## 要旨

先行研究は「弟はまだ 10 歳だ」という意味を表現しようとして「*弟は 10 歳だけだ」と表現した誤用例について、「量的規定」と「質的規定」の区別で説明できると指摘している。また、「質的規定」が例外的に許容される状況や「だけだ」の使用原理を考察した先行研究もある。しかし、「量的規定」と「質的規定」の判断は非日本語母語話者にとって必ずしも容易ではない。

本研究では、前提集合の種類や要素間の関係、「量的スケール」「質的スケール」の様式などから、「量的規定」と「質的規定」の絡み合いを示した。さらに、数量詞と日本語「だけだ」や中国語“只＋有／要／是”との共起を比較して、日本語と中国語における「量／質」の判断にズレがあることを指摘した。

キーワード：「だけだ」、“只＋有/要/是”、量、質、数量詞

* 国立台湾大学日本語文学科准教授

臺灣大學學術期刊資料庫

# 「名詞＋だけだ」から見た「量」と「質」の絡み合い
## ―日中対照的視点を含めて―

陳昭心

## 一、はじめに

日本語の「だけ」は、中国語の“只”の使用と合わせて導入されることがある。例えば『みんなの日本語』では、次のように提示されている。

（1）田中さんはどのくらいスペイン語を勉強しましたか。

・・・3か月　勉強しました。

3か月だけですか。　上手ですね。　〈11課例文6〉

（1）の中国語の訳文は（1′）のように“才”となっているが、中国語の言語感覚で“只有3個月”のように“只”で理解しても支障はない[1]。

（1′）田中先生學了西班牙文多久？

學了3個月。

啊，才3個月嗎？　講得真好呀。

〈初級I・II　課文中訳 p.120〉

（1″）只有3個月嗎？　〈筆者訳〉

同課の練習Bにおける「だけ」を含む文（2）も、“只休息10分鐘”のように“只”で考えた方が自然である。

（2）休みます（10分だけ）

どのくらい休みますか。10分だけ休みます。

〈11課練習B6（4）〉

（2′）休息多久？　只休息10分鐘。　〈筆者訳〉

「だけ」の用法について、『みんなの日本語』中国語版の文法説明

[1] 台湾で使用されている『大家的日本語　改訂版』（『みんなの日本語　第2版』の繁体字版）は、各課に単語リストとその単語の中国語訳があり、11課の単語「～だけ」の中国語訳は「只～」となっている。

臺灣大學日語教學資料庫

は、(3) のようになっている。ここでははっきり“只”を用いて「だけ」を説明している。

(3) 数量詞だけ／名詞だけ

「だけ（只）」放在數量詞或名詞後面，表示只有這些，沒有其他的的意思。

パワー電気に外国人の社員が 1 人だけいます。

動力電氣公司只有一個外國職員。

休みは日曜日だけです。

休假只有星期日。　〈初級I・II　文法解説 p.41〉

「だけ」は 11 課で導入された後、「数量詞＋だけ」や「名詞＋だけ」という形でほかの課にも提示されている[2]。次の（4）は 33 課の会話である。

(4) ワット　：すみません。わたしの車にこんな紙がはってあったんですが、この漢字は何と読むんですか。

大学職員：「ちゅうしゃいはん」です。

ワット　：ちゅうしゃいはん……、どういう意味ですか。

大学職員：止めてはいけない場所に車を止めたという意味です。どこに止めたんですか。

ワット　：駅の前です。雑誌を買いに行って、10 分だけ……。

大学職員：駅の前だったら、10 分でもだめですよ。

ワット　：そうですか。罰金を払わなければなりませんか。

大学職員：ええ、15000 円払わないといけません。

ワット　：えっ。15000 円ですか。雑誌は 300 円だったんですけど……。　〈33 課会話〉

[2] 例えば、『初級II』15 課の「わたしは 1 年に 1 日だけ働きます」(p.47)、19 課の「毎日りんごだけ食べたり、水をたくさん飲んだりしました」(p.83) と「7 月と 8 月だけ富士山に登ることができます」(p.89)、総復習の「週末だけみんなで食事します」(p.161)、『進階I』28 課の「留学生だけ来るんですか」(p.47) などがある。

臺灣大學學術期刊資訊網

（4）の「10 分だけ」は、（4′）のように、やはり中国語の言語感覚で“只有 10 分鐘”と理解されている。

（4′）瓦特　　：車站的前面。我去買雜誌，只有 10 分鐘……

大學職員：那就沒辦法了。車站前面就是 10 分鐘也不行呀。

〈進階Ⅰ・Ⅱ　課文中訳 p.111〉

これらの用例と説明を合わせてみると、中国語の“只”を通して日本語の「だけ」を理解するのが便利な方法だと言える。

ところが、次のように、中国語の言語感覚では「言えないのか？！」と驚かれる誤用例が指摘されている。

（5）車を買ったといっても、中古だけだ。　　〈台湾〉

〈『日本語誤用辞典』p.323〉[3]

（6）わたしの弟は 10 歳だけだ[4]。　　〈森本 1992:47〉

（5）は「名詞＋だけ」、（6）は「数量詞＋だけ」、と理解されるのであれば、（3）で提示された形態上の接続ルールに一致する。なおかつ、中国語の言語感覚で表現する場合は、（5′）（6′）で示したように“只”を含めているため、（5）（6）の使用心理は分からなくもない。

（5′）雖說買了車，但只是中古的。

（6′）我弟只有 10 歲。

それでは、（5）（6）のような「名詞＋だけ」「数量詞＋だけ」はなぜ誤用なのであろうか。

森本（1992）は、「だけだ」の誤用例を考察し、「普通名詞＋だけだ」や「数量名詞＋だけだ」の使用の可否について「量的規定」と「質的規定」の違いによって説明している。その後、中西（2014、

---

[3] この誤用例について、『日本語誤用辞典』は次のように説明している。
…このままでも間違いとは言えない。新車と中古車がある中、買ったのは中古のほうだけだという意味で使うならば誤用というわけではない。しかし「ただの N」と言うべきところで「N だけ」の形を使用している場合、意図しない意味を伝えてしまい、誤りとなっている。「ただの」「つまらない」などのニュアンスを添える適切な表現に乏しく、「だけ」を広く使用し過ぎているようである。(p.325)

[4] 明記されていないが、英語母語話者の誤用例のようである。

臺灣大學日本語文學系

2018）も、「量」「質」を区別した前提の下で例外的に容認される状況を指摘している。

しかしながら、先行研究の例文を見ていて「量的規定」なのか「質的規定」なのか全く迷わないというわけではない。本稿では、その「量的規定」と「質的規定」が絡み合っているところや、中国語の言語感覚から理解しにくいいくつかの「だけだ」に関する疑問点を考えていきたい。本稿の目的は、日本語母語話者にとって当たり前のように分けてある「量的規定」「質的規定」が、実はどのような絡み合っている関係なのか、また、日中の言語感覚での判断にズレがある、といったことを示すことにある。

## 二、先行研究

### （一）森本（1992）の説明

森本（1992）は、同じ「千円だけだ」という表現の自然さの違いを指摘している。

（7）「そのTシャツ、いくらでしたか。」
　　「？千円だけでした。」　〈森本 1992:39〉

（8）「会費はいくらぐらい集まっているんですか。」
　　「まだ、千円だけです。」　〈同上:40〉

（9）「お金が足りなかったんですって。」
　　「ええ。でも、借りたのは千円だけです。」　〈同上:40〉

森本氏は、「名詞＋だけだ」は量的な規定であって、質的な規定と衝突していると指摘している。それでは、何が量的な規定で、何が質的な規定なのであろうか。森本氏は、「名詞＋だけだ」をさらに「普通名詞＋だけだ」と「数量名詞＋だけだ」に分けて説明している。

まず、「普通名詞＋だけだ」の例文である。

（10）わたしの荷物はこれだけです。
（11）正社員は係長だけです。
（12）ここにくる客は学生だけです。
（13）*かれは係長だけです。

臺灣大學學術期刊資料庫

（14）*新発見をした話題の人物は、学部の学生だけです。

〈森本 1992:45-46〉

森本氏は、(13) について「話し手が言おうとしていることは人数の多寡ではない。係長、課長、部長というスケールを前提に、ひとりの人間について資格の違い、つまり質の違いを問題にする (p.49)」と説明し、(13) (14) が質的な規定であり、(10) (11) (12) が量的な規定であるとしている。

一方、次は「数量名詞＋だけだ」の例文である。

（15）出席者は 5 人だけです。

（16）今日配達された手紙は 2 通だけです。

（17）分からなかった問題はひとつだけです。

（18）*このひもは、1 メートルだけだ。

（19）*重さは 500 グラムだけだ。

（20）*いま、5 時だけだ。

（21）*わたしの弟は 10 歳だけだ。　〈森本 1992:46-47〉

森本氏は、(15) (16) (17) のような個数を表す数量詞を用いているものは量的規定であり、(18) (19) (20) (21) は質的規定であるとし、(22) のように述べている。

（22）…「名詞＋だけ＋だ」において「だけ」は量的規定を表す。したがって、対応する名詞文が量的規定を示す場合にのみ文法的に正しい文となる。数量名詞には量的規定のみ、質的規定のみ、どちらにも使われるものがあり、個数を表すものは量的規定のみである。どちらにも使われる場合、その読みによって「だけ」と共存したりしなかったりする。

〈森本 1992:49〉

このように、森本氏にとっては、量的規定と質的規定の区別ははっきり出来ているようである。ところが、中西 (2014) は、「だけだ」が質を規定する名詞述語に接続しても不自然にならない反例があることを指摘している。

臺灣大學學術期刊資料庫

### （二）中西（2014、2018）の説明

中西（2014）は、「だけだ」が質を規定する名詞述語に接続しても例外的に許容される状況を指摘している。以下、本稿なりの理解でまとめていく。

中西氏は、（23）の「名詞＋だけだ」が（24）の使用原理によるものと考えている。

（23）朝食はバナナだけだ。　〈中西 2014:20〉

（24）「X だけだ」は以下の a. と b. の両方を満たしていなければならない。

a.「X だけだ」は「X＋X の補集合（X 以外）」、すなわち「X＋X の補集合（X 以外）が同時に存在するセット」を前提集合にしていなければならない。

b.「X だけだ」は前提集合の否定を表すが、その否定は「X＋X の補集合（X 以外）のセットではない。X はあるが、X の補集合（X 以外）はない」で、補集合の要素が存在しないという非存在を表していなければならない。

〈同上:26〉[5]

具体的に言うと、（23）は、「バナナ＋バナナ以外」という同時に存在するセットを前提集合にして、朝食は「そのセットではない。バナナはあるが、バナナ以外はない」ということを言っているという。

このような（24）の使用原理は（25）にも当てはまる。すなわち、（25）は、「花粉症＋風邪」という同時に存在するセットを前提集合にして、次男は「花粉症かつ風邪」というわけではなく、「花粉症は

---

[5] 「補集合（X 以外）」という言い方について、寺村（1986）の指摘が重要である。

寺村（1986）によると、（「X だけ P」も含めて）「X は P」「X も P」「X こそ P」「X まで P」「X ばかり P」等々の文は、①「X（主格とは限らない）について P」という命題（コト的意味）と、②「X の補集合（X′）について、P と対比させられる何事か（P′）という意味を含んでいるという〈p.48〉。

寺村（1991）でも、「X ダケ P」は、〈X について P である〉というコトと、〈P と結びつくことが予想、期待されるセットのうち、X 以外のものについて P が実現しない（しなかった）〉ということとを合わせて言う形であると述べている〈p.152〉。

臺灣大學學術期刊論文檢索

あるが、風邪はない」ということを言っている。

（25）長男は花粉症で風邪だが、次男は花粉症なだけだ。

〈中西 2014:21〉

つまり、(25) は、(24) の使用原理に合致しているため、「花粉症」という質的規定の名詞であるにもかかわらず、「花粉症なだけだ」というように「な」を加えての形式が存在するのである。

中西氏はこのような例外的に許容される状況を指摘しながらも、次のような数量詞の場合は「な」を付け加えても不自然なままであるとも言っている。

（26）(その洋書は)千円ぐらい{？？だけです／？？なだけです}よ。

〈中西 2014:19〉

（26）は「数量詞＋だけだ」の形式である。中西氏は、これと同じ「数量詞＋だけだ」の（27）の不自然な理由を（28）のように説明している。

（27）*わたしの弟は 10 歳だけだ。（＝（21））

（28）…問題となる「だけだ」では前提集合「X＋X 以外」があり得ない。質を規定する述語 X につく「だけだ」では「X＋X 以外」が、「X であり、かつ、X 以外だ」になるからである。たとえば、学習者が用いる「弟は 10 歳だけだ。まだお酒は飲めない。」の場合、「弟が 10 歳であり、かつ、20 歳だ」はあり得ないので、「だけだ」が不自然になる。

〈中西 2014:17 要旨〉

このように、中西氏は（24）の使用原理を指摘しているが、質的規定と量的規定の区別については検討していない。引き続き発展した中西（2018）でも、中西（2014）の内容を次のように取り上げている。

（29）…量による規定の場合は「名詞＋だけだ」という形しか使えないが、質による規定の場合は、「甘えん坊なだけだ」のように「名詞な＋だけだ」という形で許容されることがあるというのである。

〈中西 2018:193 要旨〉

臺灣大學學術期刊資料庫

中西（2014）には（26）のようなものについての説明がまだ欠けていることから、中西（2018）では、次のように、「数量詞＋だけだ」が不自然になりやすい理由についてさらに分析した。

中西（2018）では、（30）のような「数量詞＋だけだ」が不自然になりやすい要因は、補集合の要素の存在の否定が読み取れないので不自然になりやすいと説明している[6]。

（30）*この本は1000円だけだ。　〈中西 2018:193 要旨〉

（31）

| | とりたてられている要素 | 補集合の要素 | 前提集合 |
|---|---|---|---|
| Xだけだ | X | X以外のモノ | X＋X以外のモノ |
| 1000円だけだ | 1000円だ（安価だ） | 読み取れない | 高額だ |

〈中西 2018:203　表 12〉

これに対して、（32）の「1000円だけだ」は不自然にならない。中西氏は（33）のように述べている。

（32）今日の治療費は1000円だけだった。　〈中西 2018:204〉

（33）…いつもの治療費「3000円」と今回の治療費「1000円」がスケールにおいて個としてとらえられていて、両者の間に「スケールにおける幅」が認識できる。「いつもの3000円」から「今日の1000円だ」を引いて「2000円」という差額（モノ）の非存在（他はない）が表せているので、「だけだ」が不自然にならない。　〈同上:204〉

### （三）先行研究から得た示唆と課題

森本氏と中西氏の説明は、補い合っていて興味深い。森本氏は、「量的規定」と「質的規定」の違いの指摘や、「普通名詞」と「数量名詞」を分けて検討することなど大変参考になる。中西氏は「名詞な＋だけだ」を取り入れて、「名詞な＋だけだ」の使用原理は、「名詞＋だけだ」と同じであると説明し、また、「数量詞＋だけだ」の使

[6] 原文には（30）に対する説明の表はないが、類似した誤用例に対する説明の表（31）があるため、ここではその代わりに援用しておいた。

臺灣大學圖書館期刊資料庫

用原理も、やはり「名詞＋だけだ」と同じく、補集合の存在の否定が読み取れるかどうかによると説明している。

これらの先行研究の指摘は、教育現場にとっても大変参考になる情報である。例えば、森本氏の「量的規定」「質的規定」の区別は、(5)(6)の誤用に対して、(少なくとも日本語母語話者にとっては)説明に間に合うと言える。中西氏の指摘も、「名詞＋だけだ」と「名詞な＋だけだ」の使い分けがある(!)ということが、非日本語母語話者にとっては導入されなければ気づかないところである。中国語の言語感覚で言うと、(25)は「長男は花粉症で風邪だが、次男は花粉症だけだ」と言っても何の違和感もない。

しかしながら、「量」「質」の判断は二面性を持ち、先行研究ではこの両者の判断についての説明は足りないと考えられる。例えば、森本(1992)はスケールに言及し質的規定を説明しているが、数量詞自体を含むスケールについての検討は見当たらない。中西氏は、(24)のような(ある意味では量／質の区別を越える)一貫性のある原理を指摘しながらも、量的規定と質的規定を分けて見ているだけで、両者の絡み合いについては検討していない。

本稿の立場も、量的規定と質的規定を区別するメリットを否定しない。ただ、その二面性をさらに検討する必要があると考えられる。なぜなら、(24)は原理的な説明ではあるが理解には容易ではないし、学習者の言語感覚を配慮するのなら、学習者の母語での判断もあわせて検討する必要があるからである。

例えば、先行研究で挙げている例文の中に、いくつかを取り上げてその中国語表現と比べると、これらの例文はすべて中国語の副詞“只”で表現できるため、(37)(38)(39)(40)のような表現はなぜ不自然なのかが理解しがたい。

(34) 朝食はバナナだけだ。　(＝(23))

(34′) 早餐只有(吃)香蕉。

(35) 長男は花粉症で風邪だが、次男は花粉症なだけだ。

(35′) 長男有花粉症又感冒，次男只有花粉症。

臺灣大學學術期刊資料庫

（(35)＝（25））

（36）ここにくる客は学生だけです。　　（＝（12））

（36′）這裡的客人只有學生。

（37）*このひもは、1メートルだけだ。　　（＝（18））

（37′）這條繩子只有1公尺長。

（38）*重さは500グラムだけだ。　　（＝（19））

（38′）重量只有500公克。

（39）*わたしの弟は10歳だけだ。　　（＝（21））

（39′）我弟只有10歲。

（40）*この本は1000円だけだ。　　（＝（30））

（40′）這本書只要1000塊錢。

（41）今日の治療費は1000円だけだった。　　（＝（32））

（41′）今天的治療費只要1000塊錢。

そこで、本稿では、次の課題を検討していきたい。

①「量的規定」と「質的規定」の絡み合い

②　日中言語間における判断のズレ

## 三、「量的規定」と「質的規定」の絡み合い

### （一）普通名詞の場合

「普通名詞＋だけだ」の例文には、「量的規定」なのか「質的規定」なのか、迷うものがある。例えば、中西（2014）が「花粉症」を「質的規定」と判断しているのなら、次の（42）における「学生」は身分を表すため、一瞬、「質的規定」と理解されてもおかしくない。文全体もどちらかというと、来客の属性を言っていると捉えられる。つまり、(42）は「量的規定」というより、むしろ「質的規定」の一面が先に出ている。

（42）ここに来る客は学生だけです。　　（＝（12）（36））

しかし、この文は{学生、社会人}という前提集合を意識すれば、ここの「学生」は「集合の一部分」をも指していることがわかる。

（42）を含めた森本（1992）の用例は「～は～だけだ」のもので

臺灣大學學術期刊資料庫

あるが、「～が～だけだ」のような用例も存在する。「名詞句だけ文」と「だけだ文」の違いを考察した安部（1999）は、「だけ」の限定範囲（作用域）に注目し、名詞述語の「だけだ文」を次の 3 形式に分けている[7]。

【「A が B だ」全体が表す事象をダケが限定する例】

（43）日本の敗北が決まったわけではない。三浦選手が出場停止であるダケだ。他の選手は調子がいいし、相手チームはけが人も多い。

（44）X：君の会社、休みが多くて羨ましいね。
Y：何勘違いしてるの？日曜日が休みなダケだ。しかも残業も多くて大変だよ。

【「A が B だ」の B をダケが限定する例】

（45）スタメンが 2 軍選手ダケだ。試合をなめている。

（46）参加者が若者ダケだ。主張は認められない。

【「A は B だ」の B をダケが限定する例】

（47）城選手は J リーグの一選手であるダケだ。平成のヒーローでも日本を背負っているわけでもないのだから、手のひらを返したような批判はかわいそうだ。

〈安部 1999:43-44〉

（45）（46）に注意されたい。2 例とも「名詞＋な＋だけだ」という形式ではなく、「名詞＋だけだ」の形式である。それにもかかわらず、文全体の意味としては「質的規定」のほうが前面的に出ていると考えられる。

---

7 安部（1999）は、「だけ」の位置と限定のあり方や、名詞句ダケ文とダケダ文の違いを中心に考察し、次のように述べている。
…ダケが「限定」を表すとは、〈ある前提のもとに形成される集合（以下「前提集合」）の要素の中から、当該の要素を選び出し、同時に、他の要素を非該当要素として否定する〉ことであると言い換えられる。つまり、ある要素が限定される際には、〈前提集合の設定〉と〈前提集合からの当該要素の選択〉の二つのことが行われているのである。本稿では、限定される要素が同じ名詞句ダケ文とダケダ文の意味の違いが、〈前提集合の設定〉のあり方の違いに由来することを主張する。(p.34)
「前提集合」など重要な指摘をしているが、「量的規定」「質的規定」の区別については言及していない。

臺灣大學學術期刊資料庫

（45）は「（全部の選手の中から）2軍選手だけが出場する」ということを意味し、すなわち「集合の一部分」を意識している。文全体としては「（1軍選手に及ばない）弱い」というような「質的規定」になるのである。

（46）は「（各年齢層の中から）若者だけが参加する」ということを意味し、これも「集合の一部分」を意識している。文全体としては「（中高年ほど社会的経験不足）浅い」というような「質的規定」になるのである。

このように、「量的規定」「質的規定」の判断は一見はっきりしているようだが、その文自体のみを見るべきか文脈の中で文全体を見るべきか、はっきりしないところがある。

（48）で示したように、前提集合は複数の「質的名詞」からなっている。それぞれ単に「他と違う特性」を持つものとして見ている場合もあれば、互いに「異なる評価の度合い」を含むものとして見ている場合もある。

（48）前提集合の中身：{質的名詞A、質的名詞B、・・・}
{花粉症、風邪、・・・}
{学生、社会人、・・・}
{1軍選手、2軍選手、・・・}
{若者、中高年、・・・}

つまり、いわゆる「量的規定」が言っている「個数を表す」ことは、その原理が「集合の一部分」にあり、その集合の要素それぞれが「質的要素」である。

**（二）前提集合の要素間の関係**

上述のように、「集合の一部分」を意識しているかどうかということが「名詞＋だけだ」の本質的な使用原理である。実際、中西（2012）では、すでに「だけだ」の「集合の中のモノ」としての読み込みを指摘している。

（49）「集合の中のモノ」としての読み込み
「～だけ」に前接する「～」は全体集合から補集合の要素

臺灣大學學術期刊資料庫

（～以外）を除いたモノでなければならない。「だけ」は前接する要素が「集合の一部である～」という属性さえ伴っていれば、非存在で「ディスコース上不完結な状態」が作れて適格になる。〈中西 2012:68-69〉

しかし、中西（2014）になると、前稿を踏まえながらも次のような説明を挙げている。

（50）「X だけだ」は以下の a.と b.の両方を満たしていなければならない。

a.「X だけだ」は「X＋X の補集合（X 以外）」、すなわち「X＋X の補集合（X 以外）が同時に存在するセット」を前提集合にしていなければならない。

b.「X だけだ」は前提集合の否定を表すが、その否定は「X＋X の補集合（X 以外）のセットではない。X はあるが、X の補集合（X 以外）はない」で、補集合の要素が存在しないという非存在を表していなければならない。

〈中西 2014:26〉（＝（24））

中西（2012）と中西（2014）の説明を比べると、「前提集合＝X＋X の補集合（X 以外）」などの概念は変わらないが、「同時存在」という違いがあることが分かる。しかし、なぜ「同時存在」が必要なのかということについては、説明されていない。

本稿は、この「同時存在」の説明は欠けてはいけないと考えられる。なぜなら、そもそも「前提集合」という概念は、考えようとすればいくらでも存在するものであるからである。そこで、ここでは説明を補ってみたい。

（51）（2 選択肢 A、B の単一解答式の問題。答え合わせ）

単一解答式の前提集合｛A、B｝

「正解は A です。」

＊「正解は A だけです。」〈作例〉

（52）（2 選択肢 A、B の多重解答式の問題。答え合わせ）

多重回答式の前提集合｛A/B、A＋B｝

臺灣大學學術期刊資料庫

「正解はAだけです。」　〈作例〉

単一解答式の（51）はそもそも正解になり得る選択肢が1つだけであるため、前提集合があっても｛A、B｝のようになっており、要素間は範列的関係であって包含的関係ではない。

それに対して、多重解答式の（52）は正解になり得る選択肢が1つか2つの可能性があるため、前提集合は｛A、A＋B｝または｛B、A＋B｝のようになっており、要素間は包含的関係になっている。

つまり、前提集合の要素間が包含的関係でない場合は「だけだ」を使用しにくいのである[8]。この「正解になり得る選択肢が同時に存在する可能性」が「だけだ」の使用可否を決める。

**（三）スケール性**

さらに、「量的規定」と「質的規定」の絡み合いを検討するには、スケール性を考えなければならない。なぜなら、「量的規定」でも「質的規定」でもスケール性を持つためである。

スケール性と言えば、取り立て助詞「さえ」が想起される。「さえ～ば」という表現の内実を検討した陳（2020）は、沼田（2009）の例文（53）を分析し「さえ～ば」の2種類の状況を具体的に分けている。

（53）彼さえ仲間にすれば、プロジェクトは成功する。

〈沼田 2009:177〉

[8] 本稿で言う「包含的関係」は、「包摂関係」と違う。例えば、「動物」と「犬」には包摂関係があり、「動物」は「犬」の上位語、「犬」は「動物」の下位語になっている。すなわち、「動物」と「犬」は「集合－部分」だけでなく「上位－下位」関係をも持っている。しかし、「包含的関係」は、「集合－部分」の関係を言っており、「上位－下位」の関係を言っていない。

臺灣大學圖書館

（54）「さえ～ば」状況 1

| 状況 1：「彼（A）」はかけがえのない条件である | | |
|---|---|---|
| 強い条件 | A＋B＋C | |
| ↕ | A＋B | |
| 弱い条件 | A | さえ仲間にすれば、成功する。 |

〈陳 2020:86 図 1〉

（55）「さえ～ば」状況 2

| 状況 2：「彼（A）」はかけがえのない条件ではない | | |
|---|---|---|
| 強い条件 | C | |
| ↕ | B | |
| 弱い条件 | A | さえ仲間にすれば、成功する。 |

〈陳 2020:86 図 2〉

「さえ～ば」が示す条件の序列関係は上記の 2 種類の様式があるように、スケール性というものは、実は次の 2 種類がある。

（56）量的スケール

A＋B＋C
A＋B
A

（57）質的スケール

C
B
A

「量的スケール」は、A＋B が A を、そして A＋B＋C が A や A＋

臺灣大學學術期刊資料庫

B を包含しており、包含的関係となっている。包含的関係でありながら、各部分が分割可能である。これに対して、「質的スケール」は、包含的関係ではなく範列的関係である。

例えば、「*彼は係長だけだ」は言えない。「係長、課長、部長」をスケール化にすると、(58)のような「量的スケール」ではなく、(59)のような「質的スケール」である。

（58）量的スケール

係長＋課長＋部長

係長＋課長

係長

（59）質的スケール

部長

課長

係長

このように、スケールの様式は「量的スケール」と「質的スケール」の 2 種類があるが、「名詞＋だけだ」で言えるのは「量的スケール」の場合である[9]。

**（四）数量名詞の場合**

「数量名詞＋だけだ」は、まさに「量的規定」と「質的規定」の絡み合いを体現するものである。例えば、「*この本は 1000 円だけだ」は言えない。この例文における数量名詞「1000 円」をスケール化にすると、（60）のような「量的スケール」ではなく、（61）のよ

---

9 安部（1999）は、「ダケダ文における前提集合は、〈発話者の主観的尺度〉に基づいて設定された、発話者の主観的色付けがなされた集合である（p.32)」と結論づけている。「尺度」というものを本稿で言うスケールと理解しても良さそうであるが、安部氏は「量的尺度」「質的尺度」のように分けていない。例えば、安部氏は「手元にあるのは 1000 円ダケだ。全部は買えない。(p.44)」という用例を挙げて、次のように述べている。

...数量詞「1000 円」によって「数値」という尺度が明示的に導入される場合は、ある基準に達するか否かという観点から限定される要素を捉えることが容易になるため、不足感を感じやすくなるのであろう。(p.44)

安部氏は正用例をもとにして論じているため、「量」と「質」を分けずに見ているようである。しかし、本稿は、誤用例を説明するのに「量」と「質」の絡み合いを検討することが必要だと考えられる。

臺灣大學 (僅供個人學術使用)

うな「質的スケール」である。

（60）量的スケール

1000 円＋1000 円＋1000 円
1000 円＋1000 円
1000 円

（61）質的スケール

3000 円
2000 円
1000 円

これに対して、(32)＝(41)「今日の治療費は 1000 円だけだった」が言えることについて、中西 (2018) は、「いつもの治療費「3000 円」と今回の治療費「1000 円」がスケールにおいて個としてとらえられていて、「2000 円」という差額（モノ）の非存在（他はない）が表せているので、「だけだ」が不自然にならない（p.204)」と説明しているが、上記の 2 種類のスケールの比較で分かるように、(32)＝(41) は「量的スケール」であって、すなわち、いわゆる「差額」が分割可能な部分である。

森本（1992）で挙げた（62）（63）（64）も、スケール化にしてみると、「量的スケール」と「質的スケール」の違いが考えられる。(62) は「質的スケール」であるのに対して、(63)（64）は「量的スケール」である。

（62）「その T シャツ、いくらでしたか。」
「？千円だけでした。」（＝（7））

（63）「会費はいくらぐらい集まっているんですか。」
「まだ、千円だけです。」（＝（8））

（64）「お金が足りなかったんですって。」
「ええ。でも、借りたのは千円だけです。」（＝（9））

また例えば、(65) は言えないが、(66) は言える。両者をスケール化にしてみると、やはり「量的スケール」と「質的スケール」の違いが考えられる。

臺灣大學學術期刊資料庫

（65）*下の息子は 1 歳だけだ。　〈作例〉

（66）息子 2 人の年齢差は 1 歳だけだ。　〈作例〉

（67）量的スケール

1 歳＋1 歳

1 歳

（68）質的スケール

2 歳

1 歳

（65）の「1 歳、2 歳、…」をスケール化にすると、（67）のような「量的スケール」ではなく、（68）のような「質的スケール」である。これに対して、（66）の「1 歳（の年齢差）」は、（67）のような「量的スケール」で示したように分割可能な成分が見られる。

**（五）まとめ：3 種類の「集合」**

ここまで述べてきたことをまとめてみると、次の表 1 になる。

表 1　3 種類の「集合」

| 集合I | 集合II | 集合III |
|---|---|---|
| A＋B<br>A | B<br>A | A、B |
| 量的スケール性あり | 質的スケール性あり | スケール性なし |
| 包含的関係、<br>分割可能 | 範列的関係 | 範列的関係 |
| 「A だけだ」OK | 「A だけだ」NG | 「A だけだ」NG |

「名詞＋だけだ」の使用には、「集合の一部分」を意識する必要がある。その前提集合の要素間に包含的関係でありながら分割可能である。また、「集合」が「部分」を含めているのだから、「量的スケール」が必然的に成り立つ。

臺灣大學學術期刊資料庫

したがって、(48)「前提集合の中身」をスケール化にすると、やはり次の（69）になるのである[10]。

（69）量的スケール

質的名詞 A＋質的名詞 B

質的名詞 A

## 四、日中言語間における「量／質」判断のズレ

日本語の「だけだ」も中国語の“只”も、数量表現を限定することができるが、「量」なのか「質」なのかという判断が異なるところがある。

説明の便宜のため、以下、繰り返していくつかの先行研究の例文と筆者による中国語訳を提示しておく。

（70）出席者は 5 人だけです。　（＝（15））

（70′）出席者只有 5 人。

（71）今日配達された手紙は 2 通だけです。　（＝（16））

（71′）今天寄送的信只有兩封。

（72）分からなかった問題はひとつだけです。　（＝（17））

（72′）不懂的問題只有一個。

（73）*わたしの弟は 10 歳だけだ。　（＝（21））

（73′）我弟只有 10 歳。

（74）*このひもは、1 メートルだけだ。　（＝（18））

（74′）這條繩子只有 1 公尺長。

（75）*重さは 500 グラムだけだ。　（＝（19））

（75′）重量只有 500 公克。

（76）*この本は 1000 円だけだ。　（＝（30））

---

[10] 本稿の考えでは、すべての名詞は「質」を言っていると理解できる。それで、次のように、

量的スケール

名詞 A ＋名詞 B

名詞 A

と示しても構わない。しかし、「量と質の絡み合い」を示すことが本稿のポイントであるため、あえて（69）のように示すことにした。

臺灣人文學術期刊資料庫

（76′）這本書只要1000塊銭。

（77）今日の治療費は1000円だけだった。　　（＝（32））

（77′）今天的治療費只要1000塊銭。

（78）手元にあるのは1000円ダケだ。全部は買えない。

（78′）手頭只有1000塊銭。　　〈（78）は安部 1999:44〉

（79）*いま、5時だけだ。　　（＝（20））

（79′）？？現在只有5點。

以上の例文の中で、中国語で“只”を使えないのは（79′）の時刻のみである。また、（76′）（77′）（78′）のように、いわゆる「値段／価格」を言うか「差額／残高」を言うかと関係なく、中国語では“只要”“只有”のように“只”を使える。これらのことから、日中両言語における「量／質」の判断に違いがあることがうかがえる。

そこで、日中両言語における「量／質」の判断の違いを、表2～表6で示してみた。

表2

| | 中国語 | 日本語 |
|---|---|---|
| 時刻 | ？？只有1點<br>○　才1點 | *1時だけです。<br>○　まだ1時です。 |
| 時間<br>（期間） | ○　只有1個小時<br>○　才1個小時 | ○　1時間だけです。<br>○　まだ1時間です。 |
| 時間差 | ○　只差1個小時 | ○　時間差は1時間だけです。 |
| | ○　一點點時間 | ○　少しの時間 |

表3

| | 中国語 | 日本語 |
|---|---|---|
| 価格 | ○　只要100塊銭<br>○　才100塊銭 | *100円だけです。<br>○　たったの100円です。 |
| 価格差 | ○　只差了100塊銭 | ○　価格差は100円だけです。 |

臺灣大學學術期刊資料庫

| | | |
|---|---|---|
| 財産総額 | ○　只有 100 塊銭 | ○　100 円だけです。 |
| 財産金額差 | ○　只差了 100 塊銭 | ○　金額差は 100 円だけです。 |
| | ○　一點點銭 | ○　少しの金額 |

表 4

| | 中国語 | 日本語 |
|---|---|---|
| 長さ | ○　只有 1 公尺<br>○　才 1 公尺 | *1 メートルだけだ。<br>○　たったの 1 メートルだ。 |
| 長さの差 | ○　只差了 1 公尺 | ○　長さの差は 1 メートルだけです。 |
| | ○　一點點長度 | ○　少しの長さ |

表 5

| | 中国語 | 日本語 |
|---|---|---|
| 重さ | ○　只有 1 公克<br>○　才 1 公克 | *1 グラムだけだ。<br>○　たったの 1 グラムだ。 |
| 重さの差 | ○　只差了 1 公克 | ○　重さの差は 1 グラムだけです。 |
| | ○　一點點重量 | ○　少しの重さ |

表 6

| | 中国語 | 日本語 |
|---|---|---|
| 年齢 | ○　只有 1 歳<br>○　才 1 歳 | *1 歳だけです。<br>○　まだ 1 歳です。 |
| 年齢差 | ○　只差了 1 歳 | ○　年齢差は 1 歳だけです |
| | ○　一點點歳数/一點點年紀 | *少しの年齢 |

臺灣大學學術期刊資料庫

これらの比較から、次のようなことがわかる。

まず、表 2 で示したように、日中両言語ともに「時刻（質）」と「期間／時間差（量）」は形態上も意味上も異なっているため、「量／質」の判断は一致しているようである。

しかしその一方、表 3 で示したように、「だけだ」は「価格差／総額／金額差（量）」とは共起するが、“只”は「価格」とも共起する。また、表 4 と表 5 で示したように、「だけだ」は「長さの差／重さの差（量）」とは共起するが、“只”は「長さ／重さ」の度合そのものとも共起する。さらに、表 6 で示したように、「だけだ」は「年齢差（量）」とは共起するが、“只”は「年齢」とも共起する。

つまり、中国語で「価格／長さ／重さ／年齢」を言うとき、それらの「差額」と同じように量の概念として考えている可能性がある。これに対して、日本語では「価格／長さ／重さ／年齢」を言うとき、それらの「差額」と違ってそれほど「量的」な概念を感じないようである。（特に「年齢」は「価格／長さ／重さ」より「量的」な感じが薄いようである。「少しの金額／長さ／重さ」は言えるが、「*少しの年齢」は言えない。）

このように、日本語の「だけだ」も中国語の“只”も、数量表現を限定することができるが、「量」「質」の判断にはズレがあると言える。

したがって、日本語教育ではまず表 2 のような「*～時だけだ」「～時間だけだ」の違いで導入すると良いと考えられる。「1 時＝時刻」「1 時間＝期間（量）」は形態上も意味上も異なっており、なおかつ中国語の“只”の使用の容認度も違うので、説明に便利である。

## 五、中国語の副詞“只”による「量／質」の限定

ここまで見てきた用例の中国語訳を詳しく観察すると、“只有”や“只要”が見られる。中国語の“只有”と“只要”は、「量的規定」と相性がいいようである。

ここで言う“只有”と“只要”は、連詞（接続詞）ではなく「副詞“只”

臺灣大學學術期刊資料庫

＋動詞“有／要”」というものである[11]。高橋ほか（1995）では、「“只有／只要”は、そのあとが名詞または名詞性の連語しかない場合は、連詞ではなく、副詞と動詞から成っている（p.629）」と記述され、次の用例が挙げられている。

（80）家里只有我一個人。（家には私 1 人しかいません。）

（81）只有這一種式様。（この型だけしかありません。）

（82）我只要這本書。（この本しか欲しくありません。）

（83）這只端硯只要一百塊銭。（この端渓の硯はたった 100 元しかしません。）　〈高橋ほか 1995:629、原文日本語訳〉

では、本稿で取り上げた先行研究における代表的な例文とその中国語訳を再び示し、今度は「質的規定」を念頭に置いて、できるだけ質的な表現を感じさせる中国語も併せて翻訳してみる。

（84）朝食はバナナだけだ。

（84′）早餐只有香蕉。

（84″）？？早餐只是香蕉。

（85）ここにくる客は学生だけです。

（85′）這裡的客人只有學生。

（85″）？？這裡的客人只是學生。

（86）長男は花粉症で風邪だが、次男は花粉症なだけだ。

（86′）長男有花粉症又感冒，次男只有花粉症。

（86″）長男是花粉症又感冒，次男只是花粉症。

（87）わたしの弟はたったの 10 歳だ。

（87′）我弟只有 10 歳。

[11] 連詞（接続詞）はよく複文の中に用いられる。中国語の複文には条件を表すものがあり、その代表的な連詞は“只有”と“只要”である。“只有”はよく“只有～、才…”という構文を用いて「～でなければ…しない」の意味を表し、“只要”はよく“只要～、就…”という構文を用いて「～しさえすれば…」の意味を表す。高橋ほか（1995）をご参照。

臺灣大學圖書館版權公告

（87″）我弟只是一個 10 歲的小男孩。

（88）このひもは、たったの 1 メートルだ。
（88′）這條繩子只有 1 公尺長。
（88″）？？這條繩子只是 1 公尺長。

（89）重さはたったの 500 グラムだ。
（89′）重量只有 500 公克。
（89″）？？重量只是 500 公克。

（90）この本はたったの 1000 円だ。
（90′）這本書只要 1000 塊銭。
（90″）？？這本書只是 1000 塊銭。

（91）今日の治療費は 1000 円だけだった。
（91′）今天的治療費只要 1000 塊銭。
（91″）？？今天的治療費只是 1000 塊銭。

（92）手元にあるのは 1000 円だけだ。全部は買えない。
（92′）手頭只有 1000 塊銭。
（92″）？？手頭只是 1000 塊銭。

上で示したように、（86）（87）は「副詞“只”＋動詞“是”」という“只是”の形態で質的な読み合いを出すことができるように考えられる。

また、“只是”の使用の可否は、（85）のいわゆる「量的規定」の説明に都合が良い。しかし、（88）（89）のいわゆる「質的規定」の説明には不都合である。

（90）（91）は、中国語では同じく「いくらかかる？」という発想からの表現なので、「持つ」や「存在」を表す“有”を使わずに「要る」を表す“要”を用いて表現する。これに対して、（92）は「持つ」

臺灣大學學術期刊資料庫

や「存在」を表す“有”を用いて表現する。

これらのことをまとめると、中国語の副詞“只”による「量／質」の限定は次のようになる。

（93）中国語の副詞“只”による「量／質」の限定

“只＋有”……量

“只＋要”……どちらかというと量

“只＋是”……質

## 六、おわりに

本稿では、「名詞＋だけだ」の誤用例を説明した「量的規定」「質的規定」の判断を、日本語と中国語の対照的視点から検討した。

「量的規定」と「質的規定」は、スケール化にすると、量的スケールと質的スケールが見られるように、絡み合っている。特に数量表現の場合は、日本語と中国語の「量／質」の判断にズレがあり、教育現場での説明のポイントとなる。

今後の課題はまだたくさんある。例えば、中国語の“只”の副詞用法と“只有”“只要”“只是”のような連詞（接続詞）用法の繋がりと、日本語の「ただ」と「だけ」の繋がりや、「～だけだ」と「～なだけだ」の使い分け、「さえ～ば」と「だけ～ば」の区別などが挙げられる。

また、日本語の「だけ」「しか」と中国語の“只”の対照もなお検討する余地がある。それだけでなく、「英語の“just”の用法など、対照研究も課題である（森山　2002: 158）」という指摘を踏まえて、筆者の内省でも、日本語の「だけ」「しか」や中国語の“只”が英語の only／just のどちらに当てはまるか判断に迷うこともよくあるので、その比較対照も課題としたい。

臺灣大學學術期刊資料庫

**【謝辞】**本稿を提出する際に、広島大学の白川博之先生からアドバイスを頂きました。また、修正にあたり、審査委員の方々から多くの助言を頂きました。感謝の意を表します。

**【付記】**本論文は、109 年度科技部研究計画案（109-2410-H-002-194-）による研究成果の一部分である。

**【参考文献】**

安部朋世（1999）「ダケの位置と限定のあり方―名詞句ダケ文とダケダ文―」『日本語科学』6、国立国語研究所、pp.32-48

市川保子・浅山友貴・荒巻朋子・板井美佐・太田陽子・坂本まり子・杉本ろここ・副島昭夫・田代ひとみ・野田景子・本郷智子（2010）『日本語誤用辞典』スリーエーネットワーク

高橋弥守彦・姜林森・金満生・朱春躍（1995）『中国語虚詞類義語用例辞典』白帝社

陳　昭心（2020）「「さえ～ば」と「～ば」の違いについて―どのように「最低条件」を表すのか―」『台大日本語文研究』40、pp．77-105

寺村秀夫（1986）「「前提」「含意」と「影」」『論集日本語研究（一）：現代編』明治書院、pp.255-271（寺村秀夫（1992）『寺村秀夫論文集II―言語学・日本語教育編』くろしお出版 pp.43-58 に再録）

寺村秀夫（1991）『日本語のシンタクスと意味III』くろしお出版

中西久実子（2012）『現代日本語のとりたて助詞と習得』ひつじ書房

中西久実子（2014）「「名詞＋だけだ」が不自然になる原因―「弟は10 歳だけだ」はなぜ不自然なのか―」『日本語教育』159、日本語教育学会、pp.17-29

中西久実子（2018）「なぜ「数量語＋だけだ」は不自然になりやすいのか」『国立国語研究所論集』14、pp.193-207

沼田善子（2009）『現代日本語とりたて詞の研究』ひつじ書房

臺灣大學學術期刊資料庫

森本順子（1992）「誤用研究ノート―「だけだ」を中心として―」藤森ことばの会（編）『藤森ことば論集』清文堂、pp.37-61
森山卓郎（2002）「取り立て助詞の文末用法をめぐって―「だけだ」を中心に―」佐藤喜代治（編）『国語論究第 10 集　現代日本語の文法研究』明治書院、pp.145-159

**【教科書】**

（スリーエーネットワーク『みんなの日本語　第 2 版』繁体字版）
『大家的日本語　初級I　改訂版』（2015）大新書局
『大家的日本語　初級II　改訂版』（2015）大新書局
『大家的日本語　進階I　改訂版』（2016）大新書局

（スリーエーネットワーク『みんなの日本語　翻訳文法解説・中国語版』繁体字版）
『大家的日本語　初級I・II　文法解説・課文中訳・問題解答』（1999）大新書局
『大家的日本語　進階I・II　文法解説・課文中訳・問題解答』（1999）大新書局

臺灣大學學術期刊資料庫